

# 米国大統領選挙とインドの高額紙幣廃止の影響について

ご参考資料 2016年11月10日

- 11月9日(日本時間)に米国大統領選挙の開票作業が行われ、ドナルド・トランプ氏が優勢との報道を受けてリスク回避の動きが急激に強まり、アジア時間には各国市場が大幅な株安となったほか、米ドル安円高となりました。
- 11月8日にインドのモディ首相がテレビ演説において、現行の1,000ルピー紙幣と500ルピー紙幣を翌日の9日から廃止し、新たに2,000ルピーと500ルピーの新紙幣を発行すると発表したことを受けて、インド債券市場は大幅高(金利は低下)となりました。

## 11月9日のインド金融市場

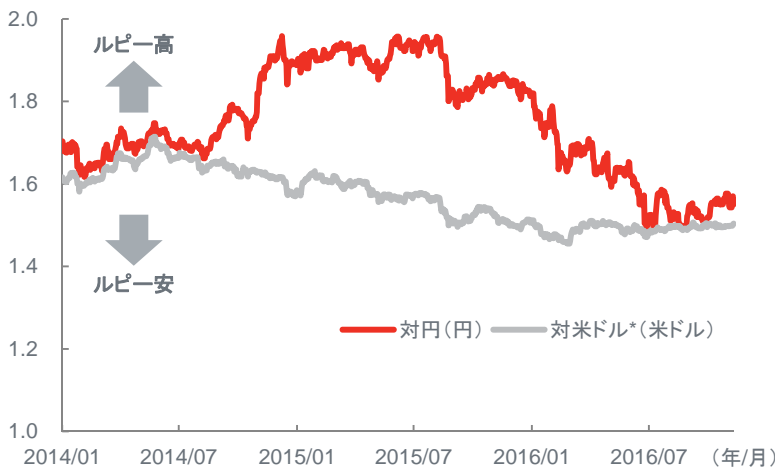
- 11月9日のインド債券市場では、10年国債利回りが6.67%と前日比0.13%の大幅低下(債券価格は上昇)となりました。為替市場では、インドルピーは1.5036米ドル(100ルピー当たり)と、前日比+0.2%となりました。
- 米国大統領選では、優勢と見られていたクリントン氏を抑えてトランプ氏の勝利が濃厚となったことからアジアの株式市場は全面安となり、インド株式市場も下落しました(SENSEX指数は前日比1.23%下落)。しかし、インド債券市場は8日にモディ首相が汚職や偽造紙幣対策としてインドの高額紙幣廃止を発表したことを好感して大幅高(利回りは大幅低下)となりました。

インド10年国債利回りの推移(2014年1月1日~2016年11月9日)



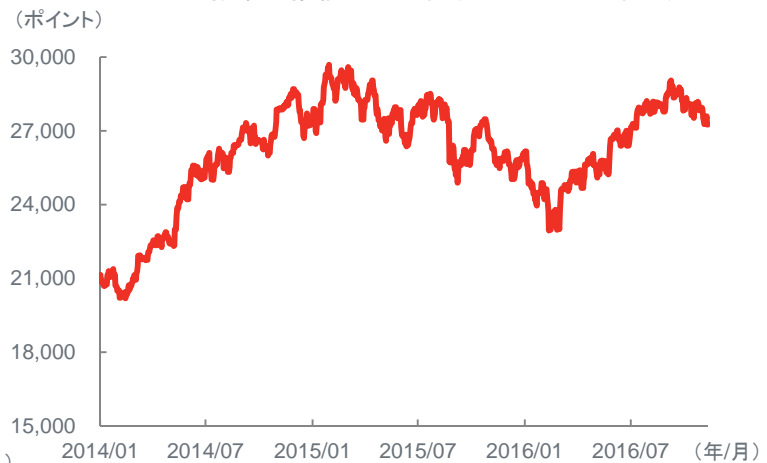
出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドルピーの推移(2014年1月1日~2016年11月9日)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
\*対米ドルは100ルピー当たり。

インドSENSEX指数の推移(2014年1月1日~2016年11月9日)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

## インド政府 汚職や偽造紙幣の防止を目的に高額紙幣の廃止と新紙幣の発行を発表

- 11月8日、モディ首相はテレビ演説において、翌日9日から1,000ルピー紙幣と500ルピー紙幣の使用を廃止し、新たに2,000ルピーと500ルピーの新紙幣を発行すると発表しました。汚職や紙幣偽造の防止などを目的としており、偽造された紙幣がテロ組織の資金源になっていることにも触れました。
- 旧紙幣は11月10日から12月30日までの間に小額紙幣に両替するか、一旦預金して新紙幣で引き出すことが必要とされています。インドでは約17兆ルピーの通貨が流通していると言われ、そのうち約15兆ルピーが1,000ルピー紙幣と500ルピー紙幣で占められていることから巨額の両替や預金が見込まれ、預金者の殺到や新紙幣の準備不足が懸念されています。
- しかしながら中長期的にはブラックマネーの根絶に加え、銀行預金残高が増加することによる流動性の向上および金利の低下、銀行口座数の増加による税収増、インフレの鎮静化等の大きなメリットも期待されます。

### 【予想される主なメリット、デメリット】

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚職、偽造通貨等の根絶</li> <li>・テロ組織の資金源が絶たれることによる治安の向上</li> <li>・銀行預金の増加による流動性の向上、預貸率の改善</li> <li>・農村部を中心に銀行口座の開設が増加</li> <li>・中央銀行が通貨発行量を把握しやすくなることによる政策効果の向上</li> <li>・インフレの抑制</li> <li>・金利低下を受けた建設やインフラ投資の増加による経済押し上げ</li> <li>・徴税率の向上や金利低下による政府の借入コスト低下を受けた財政の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新紙幣への両替がスムーズに進まなかった場合の経済活動の停滞</li> <li>・現金決済を主流としている中小企業等の資金繰りへの影響</li> <li>・一時的な現金決済の不都合に伴う消費への影響</li> <li>・ブラックマネーの流入が指摘されている不動産マーケットの冷え込み</li> </ul>

出所：各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

## 今後の見通し

- 米国大統領選挙におけるトランプ氏の予想外の勝利により、金融市場の変動率が高まりました。2017年1月に大統領に就任予定の同氏が主張する「保護主義的な貿易政策」、「インフラ投資の拡大」、「大型減税」など経済政策運営には不透明感が残ると考えます。
- 高額紙幣廃止によるインド国内への影響として、両替や現金決済での不都合が一時的に消費に悪影響を及ぼす可能性もあります。しかし、中長期的には金利低下など様々な経路を通じて景気が押し上げられることが期待されます。
- また、インドの債券市場にとっては、預金増加を背景とした銀行による債券投資の加速といった需給面での恩恵に加え、財政の改善やインフレ抑制なども追い風になると考えられます。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会